

埋藏文化財調査報告 第2集

天王山第1号製鉄址発掘調査概報

1971.3

小松市教育委員会

I 追跡の位置

南加賀平野は小松市南部で片山津丘陵と白山前山地帯に挟まれ、幅約2.5kmの最終の平野部を形成する。この平野部と聖澤温泉～山代温泉間の県道とに挟まれた海拔45m前後の丘陵は、数多くの須恵器窯址や陶質土器窯址が存在するところから、南加賀における須恵器工人集団の中心的生産地として、南加賀古窯址群の名が与えられている。天王山第1号製鉄址はこの丘陵を加賀市と小松市に二分する、那谷町から福井市にいたる小谷につき出た海拔43.5mの通称天王山（那谷町より北西約500m）の南斜面に位置する。



II 調査経過

調査は昭和45年4月1日より4月6日まで、北陸大谷高校地歴クラブ及び但馬秀三（岡山大学法文学部学生）氏の協力を得て第1次調査を実施し、さらに昭和45年7月24日より8月20日を第2次調査とし、東京工業大学大場利夫技官・但馬秀三氏・提論吉（岡山大学法文学部学生）氏及び北陸大谷高校地歴クラブの協力を得た。

第1次調査は鉱床が最も多量に分布する範囲の伐採と分析資料の採集を行い、ついで調査区を設定したが、二ツ森町一貫山須恵器窯址の緊急調査のため以下の発掘調査を後日に譲った。第2次調査は第1次調査で設定された4つのグリッドの発掘を中心に作業をすすめ、幸い設定した調査区で製鉄の全貌をつかむことができた。

III 追構及び層序の説明

追 構（第1図参照）

黄褐色粘土（地山）を長さ4.3m、幅1.7m、深さ約3.5cmに深くくぼめ、その底面に乾燥装置として厚さ約10cmに木炭を埋め、その上面に長さ3.5m、最大幅1.19m、最小幅0.88m、厚さ約2.5cmの耐火性粘土で炉床をつくっている。しかし、炉壁はまったく遺存しないため、検出された炉床面をもって、ダマラ窯炉当初の炉床と断定することは現時点ではひかえない。又、炉床周辺には焼土の散乱があり、炉面に付着する鉱床中にはほとんど有効鉄量が含まれず、今回検出された炉床は有効鉄を取り出した後のダマラの遺存体と考えられ、炉床面よりダマラの規模を想定することは無理であるが、ほぼ長方形を呈するものと考えられそうである。

層序の説明

第1断面(第2図参照)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ①硬質黄色粘土層(含炉壁片・焼土) | ⑦流出スラグの堆積 |
| ②硬質黄色土層(含スラグ・炭・焼土) | ⑧木炭層 |
| ③軟質黒色土層(含微炭粒子) | ⑨暗褐色土層(含焼土・炭・炉壁片) |
| ④硬質黄色土層(含微炭粒子・焼土) | ⑩暗褐色土層(なにも含まない) |
| ⑤軟質暗褐色土層(多含スラグ・炉壁片) | ⑪赤色酸化層 |
| ⑥暗赤褐色土層(含炭・焼土片) | ⑫耐火性粘質土層 |

第2断面(第2図参照)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ①硬質褐色土層(含炭・焼土) | ⑨軟質黒褐色土層(何も含まない) |
| ②軟質暗褐色土層(含炭・焼土) | ⑩硬質暗褐色土層(含炭・焼土) |
| ③硬質灰褐色土層(含炭細片・焼土) | ⑪硬質暗褐色土層(多含炉壁片) |
| ④軟質暗褐色土層(含炭) | ⑫硬質暗褐色土層(多含焼土・炉壁片) |
| ⑤硬質黑褐色土層(含炭・焼土) | ⑬硬質褐色土層(含炉壁・焼土・炭) |
| ⑥軟質茶黒色土層 | ⑭軟質暗褐色土層(含炉壁・焼土・炭) |
| ⑦硬質黑褐色土層(含炭・焼土) | ⑮燒土・炭片を含む軟質土層 |
| ⑧木炭層 | |

第3断面(第2図参照)

- | | |
|------------------|-----------------|
| ①表土層 | ⑯黒色土層(多含炭) |
| ②暗褐色有機質含有土層 | ⑰灰褐色土層(含炭・焼土細片) |
| ③赤褐色粘土層 | ⑱暗褐色土層(含炭) |
| ④暗褐色土層(含炭細片) | ⑲暗褐色土層(なにも含まない) |
| ⑤暗褐色土層(含焼土片・炭) | ⑳硬質灰褐色土層(含炭・焼土) |
| ⑥黒色土層(含炭・焼土・灰) | ㉑灰褐色土層 |
| ⑦硬質灰褐色土層(含炭・焼土片) | ㉒混粘土粒灰褐色土層 |
| ⑧木炭層 | ㉓灰褐色土層(含炭・焼土) |
| ⑨固い褐色土層 | ㉔褐色土層(含炭) |

Ⅳ 結語

ダララの年代については、炉床面上部より5cm離れた第1層(第1断面)中に本遺構にほど近いところにある天王山第1号陶質土器窯址の陶質土器片が混存していたので、本型窯址の築造をこの土器の示す中世以前にさかのほらせることができるであろう。本遺構にかくなる漠然とした年代観を与えたのは、陶質土器の編年序列の研究が始まってまだ日が浅く確固たる編年が樹立されていないためであり、陶質土器の編年と数多くのダララ址を調査された段階で再考したい。

(文實小村茂 小松市立博物館員)

天王山第1号製鉄址発掘調査

調査期日 昭和45年4月1日～4月6日(第1次調査)
昭和45年7月23日～8月20日(第2次調査)

調査担当 上野与一 小村茂
調査員 但馬秀三 堤謙吉
調査協力 大場利夫
北陸大谷高校地歴クラブ

調査に協力いただいた方々に感謝の意を表するとともに、試験分析にお力を注いでいただきました小板製作所の方々に衷心より謝意を表したい。

天王山第1号製鉄址採集の鉱滓分析表

採集地点	化 学 成 分 (%)								
	SiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	Fe ₂ O ₃	MnO	CaO	MgO	TiO ₂	Ig-Dos
底1(3区～7区)	22.56	8.00	4.033	24.9	0.66	1.51	5.76	17.62	1.05
底2(1区～5区)	31.30	7.65	3.660	37.4	0.59	1.40	3.87	14.65	0.19
底4(3区の1)	27.60	4.45	41.15	1.25	0.64	1.19	6.37	17.07	ナシ
底5(9区)	25.20	2.15	44.63	2.91	0.61	0.17	6.30	17.40	2.62
底6(7区黒色土層)	21.74	2.35	33.98	17.04	0.60	—	6.70	16.65	0.93
底7(2区の3)	32.82	3.75	38.65	2.17	0.63	0.73	6.63	13.65	0.62
底8(4区)	39.98	4.70	28.75	4.57	0.52	0.47	5.79	13.99	1.22
天王山土	72.26	10.75	ナシ	2.48	0.29	ナシ	0.64	0.75	7.83

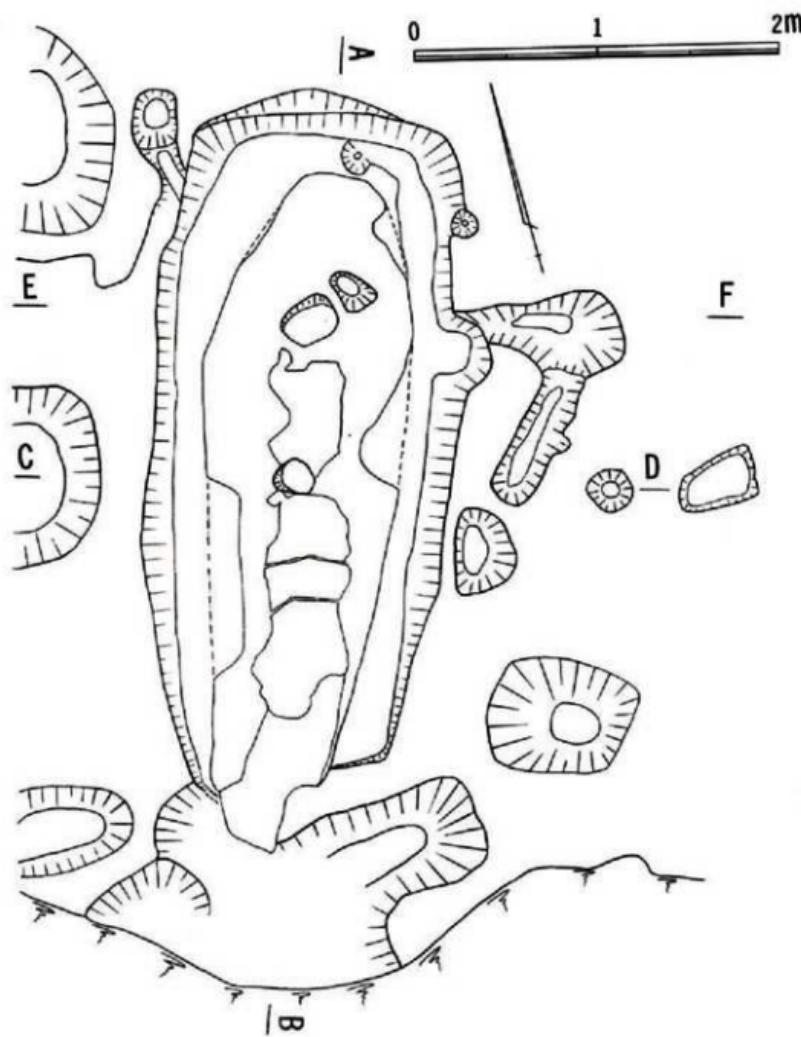


左上 タタラ近景

左中 タタラ址上面

右中 タタラ址全景

右中 タタラ址断面



第1圖 天王山第1号鐵道站平面測量圖

